

(様式2)

2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 富士市立須津小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ・Ⅴ
2 実施対象者 (学年・人数)	須津小学校全校児童 (619名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( ) ② 行事名 ( ボッチャを楽しもう ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	・オリンピック・パラリンピックが開催されるにあたり、パラリンピック競技である「ボッチャ競技」を通し、障害者スポーツへの理解を深める。 ・スポーツの価値への理解を深めるとともに、進んで平和な社会、共生社会の実現に貢献できる気持ちを高める。 ・スポーツに対する興味・関心を高め、スポーツを楽しむ心を育てる。
5 取組内容	年度当初は、昨年度も招聘した静岡ボッチャ協会の方に来校と講演、説明、講評などをいただきたかったが、コロナウイルス感染症予防の観点から不特定多数の方と接するのは心配であるとともに、上部組織から許可が下りないということであった。ルールに関しては、昨年度から本校職員である体育主任が説明をし、各学級または学年ごとに体育の時間を活用して、ボッチャを実施することに変更した。  ①体育主任とボッチャスターズ(体育委員会)によるボッチャ競技方法 昨年度も全校でボッチャを実施したが、1年経って競技ルールを忘れていている子もいることが予想されるので、年度当初の計画では、全校児童が集まり、ボッチャ集会でルールの確認を行おうとしていた。

今年度コロナ感染予防のために、大人数が集まる集会を開くことが出来ないために、ルール説明を校内テレビ放送で行うことにした。体育主任が中心となり、ボッチ



ャスターズが演技する動画を撮影し、昼の放送で全校児童に伝えた。分かりやすいように文字や音



声の説明を編集で差し込んだので、昨年度全くボッチャを行っていない1年生もルールを理解することができた。



## ②各学級、学年でのボッチャ体験 (事後：体育科)

12月22日の5・6時間目に、体育館において6年生のボッチャ集会を行った。ボッチャセットが今年度で8セットに拡充されたので、体育館内に画像のように、8か所の簡易なミニコートを手紙で作成した。



6年生全体を16チームに編成し、全員が絶えず競技できる状況を整えた。

集会の最初に、ボッチャスターズから、ルールの確認と、実施について気を付けることを伝えた。3つのリーグを組み、コートの場合と試合順について確認ができたところで、全員が各コートに分かれて実施した。



昨年度オリパラ教育事業としてボッチャを実施しているので、

全員がルールをよく知っていて覚えていたようで、スムーズに試合を開始することができた。

1投1投に一喜一憂し、盛り上がりを見せた。見た目では白いジャックボールに赤、青どちらのボールが近いかわからない場合には、敵味方の頭を突き合わせて確認し、決定していた。

正式なコートに比べるとかなり狭いが、必ずどこかのチームと



対戦している状況だったので、手持ち無沙汰な子がおらず、チームで協力して活動できた。

対戦が終了し、終わりの会で、結果発表を行った。各学級の子どもたちの雰囲気、競技結果に反映されていた。子どもたちからは、またポッチャをやりたいという声がたくさん聞かれた。



### 3年生ポッチャ

翌日の12月25日の体育科の時間に、3年生の学級がポッチャを実施した。ルールが分かっているのか、しっかり投げられるのか心配していたが、みんなで楽しく始

めることができた。投げ方は、6年生よりも上手で、相手ボールに自分のボールをぶつけてどかしたり、ピタッと近づけたりする子がたくさんいて、驚かされた。3年生なりにチームメイトとどこに投げるのか話し合い、応援する温かい姿がみら



れた。

子どもたちからまたやりたいたいという強い要望があり、1月27日に2度目の実施。投げる手を利き手の反対にしたり、イスに座ったままで投げたりするルールで実施するなど、工夫して継続的に実施

した。学級の中では自分の考えを曲げないでトラブルを起こすことの多い子も、ルールを守ってみんなと楽しく実施することができた。


### 1年生ポッチャ

正式なルールではなく、赤、青どちらの色のボールが白いジャックボールに近いかで競った。

簡易ルールだったので、初めてポッチャを行った1年生も喧嘩することなく、楽しそうに実施することができた。

中には、上級生より上手と思われる1年生もいた。次回はた



	てわり活動で6年生を含めたチームで対戦したり、6年生と対戦したりすることもやる計画がもち上がった。
6 主な成果	<p>実施は難しいからあきらめるのではなく、どのようにしたら実施できるのかみんなで考え、工夫して実施することができた。地区で行われる予定になっていたPTA主催のポッチャ競技会は中止となってしまったが、校内においてポッチャを実施したことにより、ポッチャ競技の楽しさを体感することができ、来年度以降にポッチャを継続して実施する環境をつくることができた。</p> <p>また、来年度、東京オリンピック・パラリンピックが実施される場合には、全校児童がポッチャ競技を身近に感じ、テレビ越しではあるが応援する環境も整えられたと考える。</p> <p>ポッチャ競技の特性なのか、通常学級の特別な支援の必要な子どもが生き生きと活動することができ、ルールを守って学級の友達と楽しそうに活動することができた。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校児童が集まったの事業は出来ない状況だったので、委員会の児童により、事前にビデオ撮影をし、その映像をテレビ放映して全校に周知した。</li> <li>・学年ごとに実施することで、密にならず安全を確保するとともに、活動量を確保できた。</li> <li>・クラブ活動「ポッチャクラブ」があり、校内で継続的にポッチャを実施する機会をつくっている。</li> <li>・例年PTAが主体となってポッチャ競技を行っていて、PTAと学校、地域が連携して地域でのポッチャ競技の普及を図っている。</li> </ul> 
8主な課題等	<p>選手やコーチの方々に来校していただき、実際に交流することができなかった。</p> <p>密を避けるために学年・学級ごとに実施するしかなかったが、異学年との交流をさせたかった。</p> <p>例年通りの計画では実施できなかったため、新たに工夫して実施方法を考案することが難しかった。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>来年度、もし同じような状況であっても、GIGAスクール構想で整備される機器を活用して、各教室で選手とリモート交流を実施したい。</p> <p>可能であれば、選手やコーチを招聘し、本物の凄さを実際に感じさせたい。</p> <p>パラリンピックのポッチャ競技日程によると、実施期間が8/28～9/4であり、夏休み明けで学校が始まっている。平日に関しては、子どもたちがテレビ観戦で応援する時間をつくりたい。土日に関しては、メールシステムを活用し、各家庭でのテレビ応援を後押ししていきたい。</p> <p>PTA、地域とも連携し、須津地域におけるポッチャ競技をさらに定着させていきたい。</p>